

岡山のとしょかん

岡山県図書館協会報
(第122号)

新館紹介—美作大学図書館

1915年(大正4年)の津山高等裁縫学校の設立を緒とし、美作学園は2015年に創立100周年を迎えました。その記念事業の一環として、美作学園創立100周年記念館(以下「記念館」)が2016年2月26日にグランドオープンしました。

記念館は5階建てで、学修・学術情報センターが中核となり、1~3階に図書館、4階に情報教育関連施設やセミナールーム



〔記念館外観(1~3階が図書館)〕

を収容し、図書館と情報教育の融合を目指しています。また、記念館内には本学での研究活動を地域と結びつける拠点である地域生活科学研究所も併設されており、5階の367席を有するホールと合わせ、地域の「知の拠点」として計画されました。

新しい図書館の席数は238席で、大学・短大合わせて1,060人の収容定員に対し、20%以上の座席を確保しています。床面積は約2,000㎡で、収容能力は将来的な集密書架の増設計画分を加えて17万冊となっています。また、従来使用していた図書館は、その一部を閉架書庫として残し、利用の少ない資料や製本雑誌等を保管するために用いています(収容能力8.6万冊)。

新しい図書館の特徴として、図書館内に2つ、図書館外(記念館1階)に1つ、合計3つの異なるコモンズを設置したことが挙げられます。コモンズとは「寄り合える場所」という意味で、本学では、それぞれのコモンズが「交流」「学び」

「表現」という学修活動を具現化した空間として設計されています。

3つのコモンズは、記念館の1階入口にあり、飲食可能で、気楽な雰囲気の中で交流ができる「オープンコモンズ」、図書館入口にあたる2階フロアの大部分を占め、アクティブラーニングを効果的に行える多機能空間であり、記念館での学びを象徴する「ラーニングコモンズ」、すり鉢状のステージを備えており、円形の舞台を囲む形で観客が腰かけて発表やミニコンサートが鑑賞できる、表現のための空間「サークルコモンズ」、とそれぞれ名付けました。これらのコモンズは館内を利用する動線の中で、他の学生の学ぶ姿を刺激としながら、学生自身の学修をさらに深めることを意図して配置されています。

専門書や雑誌などを配架している3階部分のみコモンズを有していませんが、このフロアはキャレル機と、ゆったりとした4人掛けの閲覧席を備えており、静かに学ぶ利用者の姿が見受けられます。

新しくなった記念館は、津山市だけでなく、県北全体の注目を集めており、日々一般市民の見学・利用が絶えません。今後、地域の公共図書館や知財資源との連携をさらに深め、岡山県北の「知の拠点」としてこの記念館が活用されるよう、職員一同取り組んでいます。



〔南向きで開放的なサークルコモンズ〕

(美作大学図書館 二宮敦)

瀬戸内市民図書館もみわ広場 開館

瀬戸内市は岡山県の東南部に位置し、「人と自然が織りなす しあわせ実感都市 瀬戸内」をまちの将来像に掲げる、人口約3万9千人の市です。平成16年11月1日に牛窓町・邑久町・長船町が合併し、現在の瀬戸内市が誕生しました。

瀬戸内市には拠点図書館がなく、旧3町の図書館も小規模で、住民一人当たりの貸出冊数は、県内の市町村の中で毎年ワースト1位でした。そんな中、平成22年度に「瀬戸内市図書館整備プロジェクトチーム」が設置されました。

約5年間に渡る新図書館の準備期間中に「としょかん未来ミーティング」を重ね、住民との意見交換や、講師を招いての勉強会も行いました。開館後には自分の意見が建築や選書に反映されていることや、今までは十分ではなかった図書館サービスを受けることができるようになったという、喜びの声を多くいただいています。



〔瀬戸内市民図書館もみわ広場〕外観

平成28年6月1日に開館した「瀬戸内市民図書館」は、メインコンセプトを「もちより・みつけ・わけあう広場」としています。それぞれが暮らしや仕事、また将来を考える中で、生まれた疑問や課題を「もちより」、その解決方法やこれからの展望を「みつけ」、そして、そこからさらに生まれた気づきや新たな発見をみんなで「わけあう」ことのできる「広場」を目指しています。それらの頭文字をとって、愛称は「もみわ広場」と名付けられました。

外観は隣接する既存の中央公民館との調和を図り、間の芝生広場には、市の木「オリーブ」

が植えられています。入口付近には飲食可能な席も設け、市民の交流の場として、毎日にぎわいの空間を創出しています。また、瀬戸内市の郷土資料を本とともに紹介する「せとうち発見の道」や地元出身の世界的糸操り人形師・竹田喜之助を顕彰する「喜之助ギャラリー」、糸操り人形劇を上演することのできる舞台を備えた「つどいのへや(喜之助シアター)」も整備しました。全館で利用可能なWi-Fiサービスも備え、インターネットコーナーでは、ネット検索はもちろん、商用オンラインデータベースが利用できます。要望の高かった、自学ができる「スタディールーム」も整備しました。

図書館の延床面積は2,399㎡、開館時の蔵書冊数は8万8千冊ですが、約20万冊の収蔵能力を備えています。1階には暮らしや趣味の本・文学・子どもの本・新聞・雑誌、2階には実用書・専門書・地域資料・AV資料を配しました。

外観壁面の一部には寒風陶芸会館と連携し、備前焼発祥の地、寒風の土を使った手作りタイルが飾られています。「めざせ3,000枚! としょかん寒風タイルプロジェクト」と掲げられた企画には、赤ちゃんからお年寄りまで多くの方が参加してくださり、それぞれの思いがこもったタイル3,200枚を一堂に見ることができます。

このように瀬戸内市民図書館は、市民のみなさんとつくり上げてきた「図書館」です。多様な世代が心地よく利用でき、自分の「居場所」と実感できる場所となるよう、これからも成長し続ける「図書館」でありたいと思っています。



〔開館初日の様子〕

(瀬戸内市民図書館 横山ひろみ)

**大きな声で笑っても良いですよ！
「朝一落語」**

「もう入れるのかなあ？」朝9時10分過ぎ、図書館のドアの隙間から顔を出したお客様。今日はいつもとよりも早く来てくださっている一などと考えつつ、「どうぞ」と招き入れ、図書館の奥へのご案内します。矢掛町立図書館の通常開館時間は午前10時。ただし2ヶ月に1回だけ、開館前のひとときを開放して落語会を開催しています。その名も「朝一落語」。

きっかけは昨年4月。事務所で机を並べる生涯学習係に岡大落研OBの清水く



[普段の閲覧コーナー]

んが入ったことでした。大学時代に当図書館のイベントで寄席を開催していた縁や本人の希望もあり、定期的に落語会を行うことになりました。とはいえ、普段は静かな図書館でのにぎやかな『話芸』の会。いつどこでやったらいいかとアイデアを出し合った結果、開館前の時間を使って開催することになったのです。それから間もなく1



[朝一落語の様子「満員御礼!!」]

年。迎えた7月の朝一落語はイベント開始以来の満員御礼となりました。

図書館を利用したことのない方へのア

プローチとともに、図書館のイベントが地域の方の元気の源となれるようにと願い、これからも落語の時間を続けていきたいと思ひます。

(矢掛町立図書館 的場由希子)

「ゼロとの遭遇」から広がる世界

久米南町図書館は、2001年5月に開館し約3万冊でスタートしました。開館14周年の統計で、約8万冊中1回も貸出のない資料が数千点あることがわかりました。そこで、図書館員が一冊一冊資料を探して「おすすめのコーナー」に置いたり、「未知との遭遇」という看板コーナーに展示したりしました。しかし、時間と労力の割には、利用者へ今ひとつの反応だったので、参加型のゲーム形式にしてみました。まず、利用者は専用の袋を持って借りられていなさそうな本を探しに館内を巡り貸出回数をチェックしました。1冊でも貸出数「0」があったら、久米南町図書館の特製しおりを1枚プレゼントしました。このしおりにもちょっとした工夫を凝らし、何度でも挑戦



[KUMENAN オリジナルしおり]

してもらうために、久米南のアルファベットの「KUMENAN」を1文字ずつデザイン

した7種類のしおりを用意し、全部集める達成感も味わってもらいました。「0」の本はその場で回収し、後日まとめて展示することで貸出につなげました。「こんな本もあったのか。」と普段は手にとらないような分野の本を見つけて、借りられることもあり

ました。やっとなりませんが、利用者にとっては、今まで知らない分野の本の場所を知るとともに、新たな「知」の世界へのアプローチになったのではないのでしょうか。

久米南町図書館 2015 貸出しアップ大作戦

「ゼロとの遭遇」
Encounter with the "0"

「0」の本を探そう!
「借りられていない本を
見て(借りて)図書館特製しおりを
もらおう!

開催期間 2015年 12月20日(日) ~ 2016年 2月20日(土)

対象資料 久米南町図書館の資料
(ただし、貸出し不可の本・雑誌・新書本・相互貸借の本は除きます)

探し出された本は、2016年3月に館内展示・貸し出しを行います。みなさんの参加をお待ちしています。(※貸出しは個数でも参加できます。)

●イベントに関するお問合せ
久米南町図書館 / 086-728-4322

●その他のイベント情報は
久米南町図書館 検索

(久米南町図書館)

[埋もれた宝(本)を探そう!]

岡山県大学図書館協議会の 研修会を紹介します

岡山県大学図書館協議会について

岡山県大学図書館協議会は、県内の大学・短期大学・高等専門学校 of 図書館(計 20 館)で組織された協議会です。この協議会に加盟する機関に所属する学生・院生・教職員に対し、閲覧・複写・貸出のサービスをお互いに提供しています。

研修会について

当協議会では、加盟館の図書館職員の技量向上のため、研修会を毎年実施しており、岡山県図書館協会の助成金も活用しています。研修事業を企画・実行しているのが研修委員会です。加盟館から選出された 8 名の委員で構成されています。



[研修委員会の様子]

過去 5 年間の研修会の内容は右の表のとおりです。2015 年度は以下の研修会を企画しました。

日 時：2016 年 2 月 29 日(月)13:00～17:00

場 所：就実大学・就実短期大学

参加者：24 名

テーマ：新入生オリエンテーションについて

内 容：①講演：『「つくり・ひらく」情報リテラシー教育実践』石川敬史先生
(十文字学園女子大学)

②実演：就実大学・就実短期大学図書館

③グループ討議

④見学：S 館

年度	研修会の内容
2011 第一回	大学図書館とタブレットコンピュータの付き合い方
2011 第二回	レファレンスサービスに必要なスキルについて
2012 第一回	大学図書館の利用者教育
2012 第二回	進化する学術情報サービス、変化する大学図書館の役割
2013	図書館員として知っておきたい資料保存に関する知識・技能
2014	図書館の広報戦略
2015	新入生オリエンテーションについて

2015 年度、このテーマにした理由は、年度初めに新入生を対象に図書館オリエンテーションを実施する図書館が多いなか、参加者が集まらない、新入生が参加中に寝てしまったり、日にちがたつと記憶がなくなっていたりという問題に悩んでいる図書館が多いことからです。そこで新入生オリエンテーションについて論文を書かれている石川敬史先生に講演をお願いしました。

石川先生は、図書館情報学や日本図書館史、情報リテラシー教育、移動図書館などの研究をされています。さらに図書館総合展へのポスター展示やオリジナルブックトラックづくりなどユニークで活発な活動をされています。

講演のなかで石川先生は、新入生オリエンテーションについて「学生自身に図書館の有効性に気づいてもらう仕掛けが必要」と話されました。「仕掛け」の一部をご紹介します。

- 書店と図書館の違いを考えさせる
- 図書・雑誌・新聞の違いを考えさせる
- 写真を見せて 5 つのキーワードを考えさせる
- 初めにインパクトのある画像・映像
- 館内探索(クイズラリー)、ゲーム

○新入生オリエンテーション DVD
 ○とある学生(2 パターンの比較：図書館を利用したレポートと利用しなかったレポート)
 研修会が自館のオリエンテーションを見直す機会になりました。

今年度について

今年度は「大学図書館と著作権」のテーマで準備を進めています。日頃の疑問がスッキリする研修会になるよう委員全員で協力して企画・実行していきたいと思えます。



[2014 年度研修会]

(岡山県大学図書館協議会研修委員会委員長
 ノートルダム清心女子大学附属図書館

山本雅子)

どっちを使う？ どっちも使う！

—ラーニング・コモنزのオープンから1か月—

ラーニング・コモنز (Learning commons) は、主体的、能動的、自発的な学習の支援を提供する場として、大学では 2000 年頃から設置されはじめました。

ノートルダム清心女子大学では、ラーニング・コモنز (以下、「LC」という。) を図書館内に設置することになり、1 階南側に完成しました。LC には、グループワーク、プレゼンテーション、パーソナルの 3 つのエリアがあり、対話や話し合いをしながらの学習が可能です。貸出用パソコンも増設し、図書・雑誌、データベース・電子ジャーナルなどの図書館が提供する情報資源を利用しながら、互いに学び合うためのアクティブな空間となりました。



[2016 年 6 月にオープンしたラーニング・コモنز]
 この LC の設置を機に、「ひとりでもグルー

プでも利用しやすくなりました。」というコンセプトのもと、館内をサイレントスペースとアクティブスペースにゾーニングしました。サイレントスペースは、従来の閲覧席がある空間です。「1人で集中して勉強・読書する」、そして「ゼミ発表のグループ学習で LC を使う」といったように、2 つの空間をうまく使い分けている姿を目にします。利用のかたちが広がり、図書館は一層活気づいているようです。

また、LC はガラス張りのため、サービスカウンターからも利用している様子がわかります。ホワイトボードや可動式の机があるグループワークエリアで、学生同士が互いに刺激をうけながら学習している姿を、私たち館員は頼もしい思いで見えています。

LC は、設備として好スタートが切れましたが、今後は、人的支援のあり方という課題と取り組まなければならないと思っています。



[プレゼンテーションエリア]

(ノートルダム清心女子大学附属図書館
 土師裕子)

**岡山の高校プレゼンツ
でーれーBOOKS!**

4月、本屋大賞が発表になると「あの本、入ってる？」と聞かれるのは、どの学校の司書も同じだろう。「埼玉県や鳥取県では、学校司書が本を選ぶコンテストが行われているらしい。」
「生徒に読書の楽しさを広められる機会を増やせるなら、岡山県でもやってみよう。」2013年、岡山の高校図書館によるおすすめ本コンテスト、「すごい」を意味する岡山弁を使った「でーれーBOOKS」がはじまった。

運営組織としては、岡山県高等学校教育研究会学校図書館部会の研究部会であり、学校司書8名で構成する「岡山県高等学校図書館ネットワーク研究委員会」が主催となっている。候補本の募集や投票集計、広報等の業務はその中の担当者2名が中心となり進めている。

初年度は、「小説部門」と「一般部門」を設けていたが、司書の専門性を活かした取組にしたい、図書館には様々なジャンルの本があることを生徒に知ってもらいたいとの思いから、2回

でーれーBOOKS 2016

大賞	『鉄道デザインの心 世にないものをつくる闘い』水戸岡鋭治/日経BP社
2位	『あっ！命の授業』 ゴルゴ松本/廣済堂出版
3位	『1945←2015 若者から若者への手紙』落合由利子ほか/ころから

過去の受賞作

2014 大賞	『島はぼくらと』 辻村深月/講談社	
一般部門 1位	『おもかげ復元師』 笹原留似子/ポプラ社	
2015 大賞	『紙つなげ！ 彼らが本の紙を造っている』佐々涼子/早川書房	

目以降は小説以外を選考対象としている。前年7月から当年9月に初版が出版された本で、ストーリーマンガや文庫化作品、改題作品は含まない。

選考方法は2次投票形式で、エントリー本の投稿から大賞発表まで8カ月かけて行っている。司書だけではなく図書館担当教諭など、高校の図書館関係者が参加できる。目下の課題は参加者数を増やすことである。

順位決定後は、司書の推薦コメントや大賞作品の著者からの受賞コメントを掲載したポスターやちらし、ゆるキャラ等の広報促進用資材を担当者が作成して、HPで共有し、各校でのPRに役立っている。

「高校生に読書が楽しく役立つものだと感じてもらえるような本を選び薦める」をコンセプトにしているが、1次投票で選ばれたノミネート本では、「戦争」や「震災」など教育的なテーマを説く本やためになる本も単純に面白い本もノミネートし、幅広いジャンルの本に触れられるものとなった。

学校に設けた展示コーナーでは、読書感想文用の図書や受験対策としても活用されている。また、広く書店や公共図書館でも展示していただき、先生やお母様方から「子どもにどのような本を読ませればいいのか分からないから、このコーナーを活用させてもらっている」という声も寄せられたとのことである。

個人的には、学校図書館として生徒を教育面でもサポートしなければならないと思っている。様々な作家の本に触れ語彙を増やし、様々なジャンルの本に触れ知識を広げてほしい。「でーれーBOOKSの大賞なら読みたい」と言われるような生徒の読書意欲を喚起できるコンテストにしていきたい。

〔 倉敷工業高校 久戸瀬瑞季 〕
〔 山陽女子中学・高校 田中麻依子 〕

県図協セミナー(第1回)報告

「公共性にもとづく図書館経営」

講師：糸賀雅児氏（慶應義塾大学教授）

日時：平成28年5月30日（月）13:30～15:30

会場：岡山県立図書館 多目的ホール

「公共経営」の視点から、地域において図書館が果たす役割についてお話いただきました。

まず「公共性」とは何かについて学びました。図書館がもつ「公共性」を説明する上で、もつとも理解が得られやすいのが「外部効果」です。

「外部効果」とは、図書館の利用価値が利用者以外の地域にももたらされる波及効果のことであり、図書館においてこの外部効果を高めるためには、選書・行事イベント・テーマ展示は地域にあったものにすることが大事であると説明されました。

海老名市立図書館を例に、CCCによる図書館運営を紹介されました。CCCは既存概念を打ち破る経営哲学を持ち、民のノウハウを生かしたやり方で、本のある公共空間に人が集まることを実証しました。ただ図書館の本質を理解しているか、運営の継続性には疑問を投げかけられていました。図書館が直営か民間委託か、どういう図書館を選ぶかは、地域が決めることであると述べられました。

公共図書館における「貸出猶予」問題について、出版社側の論理や説明も不十分であるが、この問題の解決は、図書館が出版社・著者・書店に「敬意」をもっているかが重要であると説明されました。利用者に読みたい本をより早く無料で提供するのは「民業圧迫」となるため避けるべきだそうです。利用者も「お金を払うか」「時間を払うか」の選択をしなければいけないと述べられました。今までは利用者の利便性だけを考えていましたが、今後は地域の書店等に

も配慮しなければいけないと思いました。

図書館経営における「評価」について解説があり、法律で自己点検・評価を義務づけたため、評価自体が目的化して、目的意識のない評価報告書が氾濫しているとのことでした。

もともと「経営」が馴染まない図書館に「評価」は馴染まないとも言えるが、業務やサービスに要した時間・人数・冊数・金額等でコストを算出したり、館内閲覧量を測定したりするなどして、図書館サービスが地域社会にどれだけの外部効果をもたらしたかを評価するようにと説明されました。

経営評価をする上で、利用者調査の注意点も述べられ、図書館サービスの「改善」「向上」に結びつく経営評価でなければ無意味であるとのことでした。

最後に図書館業務には専門性の低いものから高いものがあり、専門性の高い業務は司書が、その他は民間委託するなど、民間と協力して地域社会が住みやすくなるような図書館経営を目指してほしいと締めくくられました。

図書館が地域社会にどのような効果をもたらすことができるかを考え、図書館運営をする必要があると思いました。そしてその取組に対して「評価」「改善」し、利用者や地域のニーズにあった図書館サービスを提供していくように努力していきたいです。

（新見市立新見図書館 西村康子）

事務局からのお知らせ

■訃報

横田 悦子 氏（平成27年10月10日御永眠）
享年63歳

犬飼 明子 氏（平成28年6月22日御永眠）
享年94歳

謹んで御冥福をお祈り申し上げます。

■理事会・定期総会

平成28年度理事会を5月18日に、定期総会を30日に開催しました。当日資料および議事録は協会ホームページで公開しています。

【平成28年度役員（敬称・役職略）】

会長（施）岡山県立図書館	村木 生久
副会長（施）岡山市立図書館	宮本 嘉彦
〃（施）岡山大学附属図書館	沖 陽子
理事（施）倉敷市立図書館	吉田 守
〃（施）総社市図書館	風早 俊昭
〃（施）岡山理科大学図書館	榊原 道夫
〃（施）金光図書館	金光 英子
〃（個）学校司書	原 弘江
〃（個）青年図書館員研修会	田中久美子
〃（個）J L A代議員	菱川 廣光
監事（施）津山市立図書館	谷口 善洋
〃（施）早島町立図書館	坂本満理枝

参与 岡山県教育庁生涯学習課長 中本 正行
〈※（施）施設会員、（個）個人会員の略〉

■平成28年度図書館功労者表彰

個人会員として図書館業務に従事貢献した次の方を表彰しました。（敬称略）

香西 恭子・田中 友美・成本 由貴
畑 裕子・丸谷香奈子・宮田 慶子
山賀ヤヨイ

■本年度の研修

○県図協セミナー（第1回） 5月30日

「公共性にもとづく図書館経営」

講師：糸賀 雅児 氏（慶応義塾大学文学部教授）

参加者：57名

○県図協セミナー（第2回） 8月17日

「公共図書館の役割と学校図書館とのかかわり」

講師：塩見 昇 氏

（前日本図書館協会理事長・大阪教育大学名誉教授）

参加者：53名

○教養講座 11月16日

「思わず手にとりたくなるチラシづくりのコツ」

講師：吉田 清彦 氏

○県図協セミナー（第3回） 2月頃（予定）

「本の修理・補修（仮）」

○県図協セミナー（第4回） 3月7日（予定）

「子どものレファレンスを考える（仮）」

講師：杉山 きく子 氏

■平成28年度企画委員

委員長 黒瀬 知子（就実大学・就実短期大学図書館）

副委員長 椋野 奈月（岡山学院大学・岡山短期大学図書館）

委員 行部 智美（岡山県立図書館）

〃 土井 絵里（岡山市立幸町図書館）

〃 中村 順子（倉敷市立水島図書館）

〃 西口 早苗（総社市図書館）

〃 田中 景子（新見市立新見図書館）

〃 小野 礼子（里庄町立図書館）

〃 的場由希子（矢掛町立図書館）

■現在、募集中！

○研修参加助成事業による平成28年度の派遣者を募集しています。

中国・四国地区図書館地区別研修 12月13日～16日：申込締切 10月11日

全国公共図書館研究集会 総合・研究部門 1月19日～20日：申込締切 11月8日

○平成29年度研究奨励金の交付申請者を募集しています。

○平成33年に協会創立70周年をむかえます。記念事業を企画するにあたり意見等の募集をしています。

詳しくは協会ホームページをご覧ください。

■熊本地震における募金の御礼

総会で御協力いただきました図書館災害復興支援のための募金11,000円を日図協へ寄付させていただきました。ありがとうございました。

平成28年9月30日発行

〒700-0823 岡山市北区丸の内2-6-30

岡山県立図書館 図書館振興課内

岡山県図書館協会 会長 村木 生久

TEL：086-224-1286